

授業科目名	電子オルガン演奏研究Ⅰ～Ⅷ	担当形態	実技		
		開講学期	春・秋		
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

基本的な鍵盤テクニックと電子オルガンの演奏テクニックを身につける。
編曲・作曲技法、電子音楽のための知識を身につけ、音楽表現をする。

＝履修の条件と学習の方法＝

目標を担当教員と話し合い、目的意識を持って取り組みましょう。
十分に準備をしてレッスンに臨み、わからないことは、積極的に質問をして、受け身だけのレッスンにならないようにしましょう。
レッスン時の録音は、その都度、担当教員の許可を得てください。

＝授業の概要＝

(1年次)

- 1期 基礎テクニック（タッチ、指の独立、脱力、ペダル奏法、エクスプレッションペダル）と読譜力を身につける。クラシック音楽の基本的な理解。
- 2期 ポピュラー音楽の基本的な理解。スケール、コードネームを習得する。

(2年次)

- 3期 クラシック音楽を研究。即興演奏に必要な力（初見力、ハーモニーの知識、編曲力）を身につける。自編曲・自作曲に挑戦する。
- 4期 ポピュラー音楽を研究。自編曲・自作曲に挑戦。積極的にレパートリー作りをする。モチーフ課題による創作力と演奏力を身につける。

(3年次)

- 5期 自編曲または自作曲に取り組む。学内演奏会において演奏をする。
- 6期 自編曲または自作曲のレパートリー作り。自分の個性を活かした音楽表現を試みる。ハーモニーの知識をさらに身につけ、コードネームなしメロディー課題の編曲演奏ができるようになる。

(4年次)

- 7期 それぞれの進路・個性を考え、より高い音楽表現を目指す。電子オルガンを学んで身につけた音楽力を活かして、自由な表現を試みる。
- 8期 完成度の高い演奏表現の自作曲または自編曲に取り組む。

＝授業計画＝

担当教員と学生で相談して、計画性を持って進める。

＝テキスト（必携）＝

学生と相談の上、担当教員より指示をする。

＝参考書・参考資料（必携）＝

学生と相談の上、担当教員より指示をする。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

実技試験により評価する。

出席日数が2/3に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することはできません。

- (I)・既成アレンジのクラシック曲 演奏時間：5分程度（レジストは本人作成のものとする。）
（自作・自編も可）
- (II)・既成アレンジのポピュラー曲 演奏時間：5分程度（レジストは本人作成のものとする。）
（自作・自編も可）
- (III)・クラシック様式の曲 演奏時間：5分程度（自作・自編が望ましい）
 - ・課題編曲演奏…コードネーム付きメロディー課題

※電子オルガン演奏研究Ⅲの試験受験の条件

全調のスケールをレッスン時にピアノで演奏。（4オクターブ、カデンツ付）

長調は、リピート無し。短調は、和声短音階に続き旋律短音階を演奏後、カデンツを演奏。

各担当教員の認印が必要。

- (IV)・ポピュラー曲 演奏時間：5分程度（自作・自編が望ましい）
 - ・モチーフ課題演奏
 - (VI)・自由曲（自作・自編に限る） 演奏時間：5分程度
 - ・課題編曲演奏…コードネームなしメロディー課題
 - (VIII)・自由曲（自作・自編に限る） 演奏時間：12分程度以内
 - 編成は、ソロまたはデュオ（共演者及び楽器は自由。ただし、本学学生・院生に限る）
- (V)と(VII)の定期試験は実施しません。各担当教員の評価による。

＝その他＝

特になし。